



令和5年産米の作柄概況について

令和6年4月1日

1)作柄

4月は高温多照、5月は初旬から中旬まで一時低温となり、その後高温で推移し、6月～7月はかなりの高温で推移しました（平年+約2.7℃）。6月9日に梅雨入りし、梅雨明けは7月22日頃となりました。梅雨の期間中の降水量は平年比約87%とやや少なくなりました。8月～9月は記録的な猛暑となり（平年+約3.8℃）、8月の日照時間は長く（平年比約163%）、降水量は少なくなりました（平年比約39%）。また、9月4日から8日にかけてまとまった降雨がありました。10月は気温がほぼ平年並み、降水量は少なく（平年比約28%）、日照時間は多くなりました（平年比約141%）。

田植え盛期は5月14日で平年より3日遅く、出穂盛期は7月28日と平年より4日早まりました。出穂後も高温が続いたため、管内全体で成熟が早まり、7月28日に出穂した場合、8月中旬に刈取適期に達していたと思われます。また、7月中旬から9月上旬の登熟期間にかけて平均気温が27℃を超えたため、高温障害による背白米や基白米が多発し、1等米比率の低下を招きました。

一方、1㎡あたり穂数、1㎡あたり粒数は平年より多く、粒数が確保されていたため、登熟期間の多照により登熟が良好になり、収量は増加傾向になったと考えられます。

宮城南部の作況指数は105の「やや良」、10aあたり収量は、ふるい目1.7mmで542kg、1.9mmで507kgとなりました。

宮城県南部

542kg / 507kg

【105】

宮城県

566kg / 537kg

【105】

<凡例>

上段：10a当たり収量kg

(ふるい目1.7mm) / (ふるい目1.9mm)

下段：【作況指数】

2)5年産米集荷状況及び品質

(袋換算)

5年12月末現在

| 地区名 | 集荷数量 | 集荷率 | 1等米比率 |
|-------|---------|---------|--------|
| 柴田 | 45,191 | 103.35% | 62.34% |
| 大河原 | 16,999 | 101.94% | 45.89% |
| 村田 | 30,875 | 96.11% | 50.33% |
| 川崎 | 50,337 | 100.31% | 76.97% |
| 蔵王 | 33,200 | 85.65% | 55.33% |
| 白石 | 46,360 | 89.24% | 50.14% |
| 七ヶ宿 | 5,777 | 102.68% | 93.75% |
| みやぎ仙南 | 434,297 | 93.90% | 56.76% |

・仙南地域における2等以下の主な格付理由

①腹白粒（61.49%）

②部分着色（カメムシ）（12.69%）

③心白粒（12.26%）

<裏面もあります>

育苗管理について

～高温障害に気をつけ、ハウス内の温度・水管理を適正に行いましょう～

温度管理

※宮城県稲作指導指針より

| 時期 | 日中の目標 | 夜間の目標 |
|-----|--------|---|
| 緑化期 | 20～25℃ | 10℃以上 低温時(外気温が5℃以下)は、早めにハウスを閉め保温資材をかけましょう。 |
| 硬化期 | 20～25℃ | |

- ◎軟弱徒長苗を防止するため、硬化期は20℃以下の温度で管理するよう努めましょう。
- ◎温度管理を適正に行うことで、苗の徒長や不揃い等を防ぎ、カビ等の発生も併せて抑制することができます。
- ◎新しいビニールに張替した場合は温度が上がりやすくなるので、注意しましょう。



温度計の設置は目の高さではなく、苗の高さに設置しましょう！！

水管理

- ◎1回目のかん水は緑化が終了してから行いましょう。
- ◎覆土や葉が乾いたら、午前中にたっぷりとかん水しましょう。



1日に何回もかん水を行うと、軟弱苗、徒長苗や根張りが悪くなります。過湿になると、カビや細菌の発生にもつながりますので、かん水は午前中に1回のみ行いましょう。

※プール育苗法については『おいしい米づくり・地域づくりカレンダー』を参照してください。

育苗時の殺菌

おすすめの使用方法

| 適用病害名/使用目的 | 薬剤名 | 希釈倍率 | 使用液量(育苗箱1箱当り) |
|-------------------------|-------------|--------|---------------|
| 苗立枯病・ムレ苗防止 根張促進・活着促進 | ナエファインフロアブル | 1,000倍 | 500ml |



水100ℓ + 薬剤100ml = 1,000倍液(苗箱200枚分)

1,000倍液を苗箱に500ml/1箱かん注します。

◎は種時の使用か、出芽直後の使用をおすすめします。

異品種混入防止対策

異品種が混入した場合、大きな損害(産地の信用喪失、損害賠償等)を被ることになります。作業を行うにあたり、繰り返し点検・確認することで確実な防止対策ができます。

対策



- ★購入した種子袋は保管しておきましょう。
- ★種子ネットは品種ごとに色を変え、品種名の札を付けて作業員全員が判るようにしましょう。
- ★品種切替り時には機械清掃をしましょう。
- ★ハウスにも品種札を設置しましょう。
- ★苗の運搬時は複数人で、事前に品種を確認しましょう。